平成28年度第３回上郷東地区まちづくり協議会　会議録	
日時	平成29年２月18日（土）14：00～16：00
開催場所	野七里ケアプラザ
出席者	委員：大原座長、吉田(敏)委員、髙橋(勝)委員、芦川委員、吉田(純)委員、前田委員、池田委員、堀田委員、神保委員、北村委員、金子委員、川崎委員、洞口委員、内田委員、佐伯委員、亀梨委員、山口委員、髙橋(理)委員、森田委員、飯塚委員 神山委員 事務局：栄区区政推進課（４名） 政策局政策課（２名） 横浜プランナーズネットワーク（３名） 傍聴者：１名
欠席者	豊田委員、高橋(毅)委員、柳澤委員、山田委員、三宅委員、森委員、齋藤委員
協議事項	上郷東地区まちづくり構想（素案）について
補足説明	＜４ｐ表１　上郷東地区の人口・世帯数の状況・今後の取組について＞ 横浜市の郊外部全体に共通のことではあるが、人口・世帯数がゆっくり減少している。きわめてゆっくりの減少でも、今後、サービスを支える需要が無いとサービスが無くなる可能性がある。サービスが無ければそこで生活できないので、人口減少は放っておけない問題である。 ＜５ｐ図3-1　上郷東地区の年齢別人口の変化、図3-2栄区と上郷東地区年齢構成の比較＞ グラフの形が変わらずに右へ動いている。ピークの世代は65歳を超えており、今後65歳以上の人口は今までのように急激に増えない。そのかわり、75歳以上にピークの世代が来る。つまり、何らかの支援が必要な後期高齢者が急激に増える。 栄区では高齢者と40代の２つのピークが同程度だが、上郷東地区は高齢者のピークの方が特に高く、年齢構成のギャップが大きいことが分かる。1970年代の開発で、約5,000世帯が一気に転入した地域なので、急激に高齢化が進んでいる。 ＜６ｐ図4-1上郷東地区の人口移動の動向、4-2　上郷東地区の年齢別転入・転出状況＞ 社会増減はわずかな変化しか見えないが、その裏には大きな転出入がある（図4-1)。30代前後と子どもの転出入数が高くなっていることから、子育て世代が大きく出入りしていることが分かる。 このことから、子育て世代にとって良い環境を作れば、その世代が転入してくるということになる。共働きの世帯が多いので、就業機会のあるところに人が集まる。 また、80歳以上の転出入が増加しているのは、介護が必要になった人が子どもや親戚の家に引っ越していることなどが原因と考えられる。高齢者施設への入所の可能性もある。 ＜９ｐ図６　６歳未満の子どものいる世帯の動向＞ 子どものいる世帯は減っており、その中でも三世代世帯が減っている。９割が核家族で、地域の中で子育て環境を充実させることが必要になる。

	＜10ｐ表２　上郷東地区の主要な就業機会等の動向＞ 　雇用は人口維持の重要な要素になる。平成 21 年～26 年における上郷東地区内の従業者総数は 22 人増だが、介護等の分野だけ見ると 119 人増と、他の業種よりも大きく増えている。高齢者が増えるということは、介護の雇用機会も増えるということ。これからの事業所等を、地域の中にどう配置して行くかが重要である。 ＜11ｐ図 7-1 働く機会の動向、図 7-2 医療、介護関係の働く機会の動向＞ 　医療業の従業者数は、栄区が微増傾向で、上郷東はほぼ変化がない。つまり、郊外部は介護関連の事業所・従業者は多いが、医療分野の事業所・従業者は少ない。これは、医療サービスをうける機会が少ない地域だということがわかる。
意見	・テレビで徳島県の某地域に IT 企業が集積しつつあるとの話題を見た。IT 企業であれば住宅地の形態や景観を変えなくてもよい。上郷東地区は、東京からそれほど遠くないが地価など格安で企業には価値がある。いろいろな事業ができる規制緩和を考えてほしい。 →上郷東地区は住宅地なので、あまり大きな企業はイメージできないが、住宅地でもできる仕事を考えていく、住宅地ならではの事業のあり方を考えるのが大事。例えば地域の中の空き家を活用した仕事場なら、通勤から解放されて歩いて通えるので、子育て中の人や定年後の高齢者などが、短時間仕事をするような柔軟な働き方ができる。（座長） ・電柱の地中化を進めてほしい。 ・子育て世代は中学校が閉校になったことを不安に感じている。近くに小中学校があるから上郷東地区に来たという人もいる。旧庄戸中学校跡地には教育機関を入れてほしい。 ・今は２世帯住宅を建てることが規制されている地区もある。今後若い人が住むためには今の状況では限界がある。 ・上郷東地区では健康のために努力している人が多いと感じる。 ・最近建売住宅が増えてきた。4000 万円程度で若い世代にも手が出せるようになった。また、自治会から出生祝い金を出すことにした。若い人に限らず家を買って住もうという人は、元気で住み続ける意思がある人なので、歓迎したいと思っている。 ・市民病院の駐車場入庫待ちが原因で周辺の道路が渋滞している。旧庄戸中学校跡地に駐車場を備えた病院と商業施設を併設してはどうか。小児科や産婦人科が減っているが、若い世代に来てもらうには必要。 ・地域の外から来る人の車を止める駐車場がない。交流という点では車を止める場所があることは重要だ。 ・バスの本数が少なく、遅れが話題になっている。増便を検討してほしい。

	・７割の人が港南台駅を最寄り駅と回答しているから、港南台駅を中心にしたまちづくりを考えるべきではないか。 ・経団連の提案については、企業のメリットがあるか等議論されているのか。 ・老人クラブの活動をしているが、交流があまり活発ではない。女性はPTAなどで交流があるが男性はない。もう少し若くて元気な世代の交流の場が必要だと感じ、来期の老人クラブの活動で「カフェ」を考えている。 ・Ⅲまちづくりの方向　１まちづくりの考え方　(3)多様な主体が連携して取り組む に、「地域と行政」とあるが「行政と地域」にすべき。今残っている大きな問題のほとんどは行政がやるべき問題である。 ＜今後の取組について＞ ・分科会を早く立ち上げてそれぞれでテーマを絞った検討を進めていくのが良い。 ・「まちづくり協議会」ではなく「まちの再生・活性化委員会」などにすべきだ。 ・40代、50代がすべきことを考えていく必要がある。市からもこの世代に働きかけてほしい。 ・分科会はどのようなメンバーにするかが重要。若い人を入れるならば、働きかけをしなければならないが、自治会・町内会だけに任されても難しい。 ・今までの協議会の委員が今後どのくらい協力してくれるか。議論を継続していくためには、この２年間のメンバーが今後も中心になってほしいと思う。 ・公民連携の話が出てきたが、「民」でできることは今まで既にやってきた。今後は行政が中心になってやってほしい。 ＜座長コメント＞ ・まちの再生・活性化の視点や、分科会を作って具体的に検討を進めていくという動かし方も、素案の中に入れられるとよい。 ・区の姿勢を示してほしい。そのうえで地域が主体となってまちづくりに取り組むということを素案に加えてほしい。 ＜事務局コメント＞ ・ここからの具体化が大事である。具体的なご提案もいろいろいただくことができた。 ・行政がやるべきところはしっかりやっていきたい

資料	・次第 ・【資料１】分科会などの活動報告 ・【資料２】上郷東地区まちづくり構想（素案） ・【資料３】今後の取組について ・【別添資料】上郷東地区まちづくりへのご提案